

「さんぱい施設見学会」等の実施状況

平成26年度の取組状況（平成26年11月末現在）

1 さんぱい施設見学会（エコバスツアー）

＜廃棄物指導課が実施＞

3回（計77名）

※ いずれも小中学生向け、
参加者数は保護者を含む。

②5 3回（計74名）
※小中学生向け

＜各区エコまちステーション等が実施＞

7回（計169名）

※ 上記以外にも地域の団体が企画するものがある。

②5 6回（計106名）

2 第15回環境フォーラムきょうと **準備中**

産廃の処理やリサイクルについて、市民に知ってもらうための
イベント（（公社）京都府産業廃棄物協会と共催で実施）

・日時：平成27年3月7日（土）

・場所：イオンモールKYOTO kotoホール

1 さんぱい施設見学会（エコバスツアー）

1 廃棄物指導課実施分（小中学生対象）

- 8月 1日 月桂冠(株)～(株)大剛, 京都有機質資源(株)
- 8月 4日 三菱自動車工業(株)～(株)京都環境保全公社
- 8月 8日 サントリー酒類(株)京都ビール工場～(株)カンポ

※ 平成23年度から見学先に排出事業場を加えた。

2 各区エコまちステーション実施分（平成26年11月末現在）

- 5月 30日 西部圧縮梱包施設～森の力～伏見クリエイト (西京区・洛西)
- 9月 3日 (株)大剛 (山科区)
- 10月 27日 南部リサイクルセンター～(株)京都環境保全公社 (右京区)
- 10月 29日 (株)大剛 (山科区)
- 11月 4日 京都有機質資源(株) (左京区)
- 11月19日 (株)大剛 (山科区)
- 11月28日 (株)京都環境保全公社 (伏見区・深草)

※ 平成24年度から各区エコまちステーション等でも産業廃棄物処理施設の見学を企画・実施できることとした。

見学会の様子（8/1）一月桂冠(株)

◆環境への取組について紹介



見学会の様子（8/1）—(株)大剛—

◆RPF製造施設，空き缶のリサイクル施設等の見学



見学会の様子（8/1）—(株)京都有機質資源—

◆食品廃棄物のリサイクル施設の見学



見学会の様子（8/4）

—三菱自動車工業(株)
パワートレイン製作所—

◆環境への取組について紹介



見学会の様子（8/4） —(株)京都環境保全公社—

◆焼却施設等の見学



見学会の様子 (8/8)

-サントリー酒類(株)
京都ビール工場-

◆環境への取組について紹介

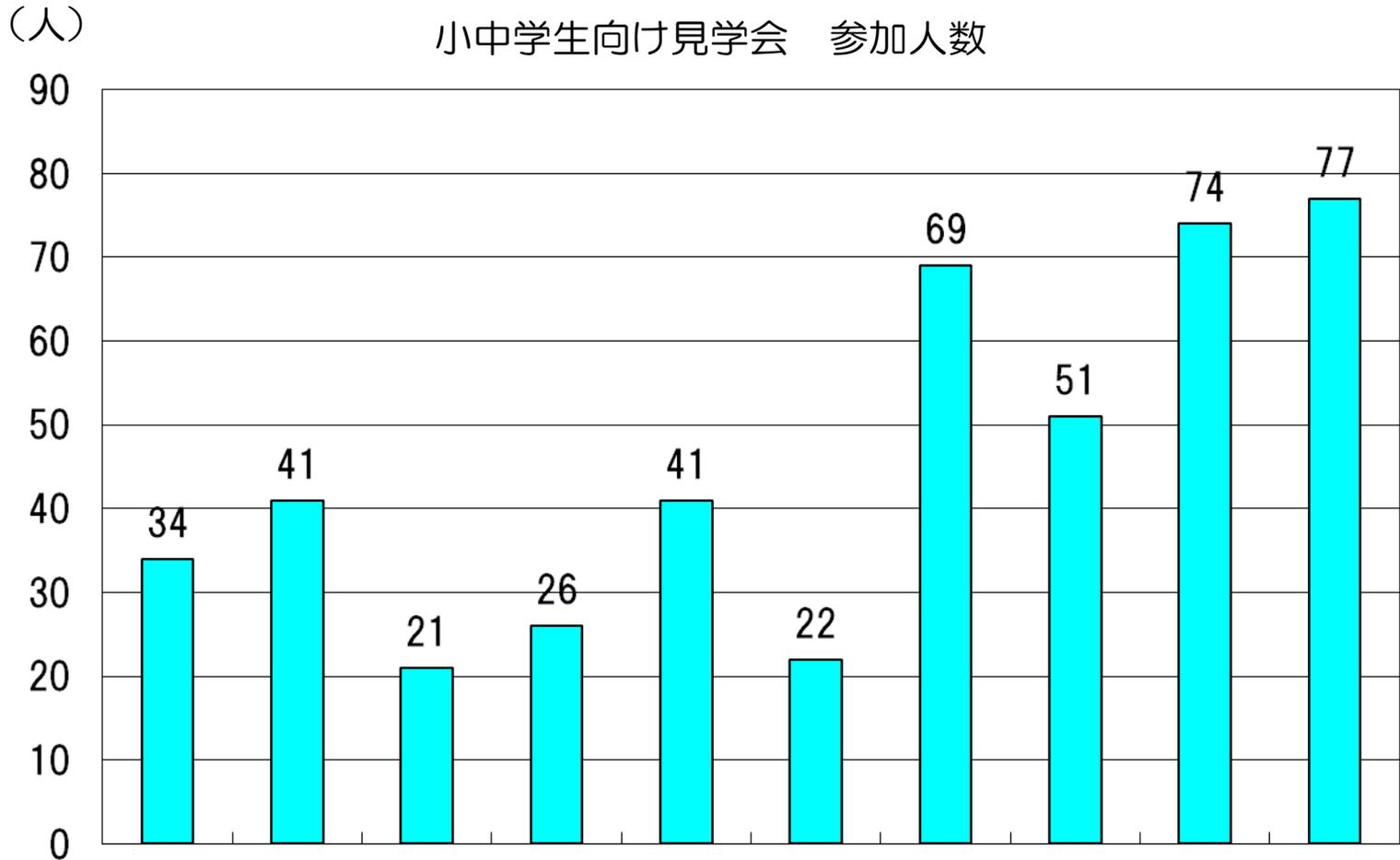


見学会の様子（8/8）－(株)カンポー－

◆RPF製造施設の見学



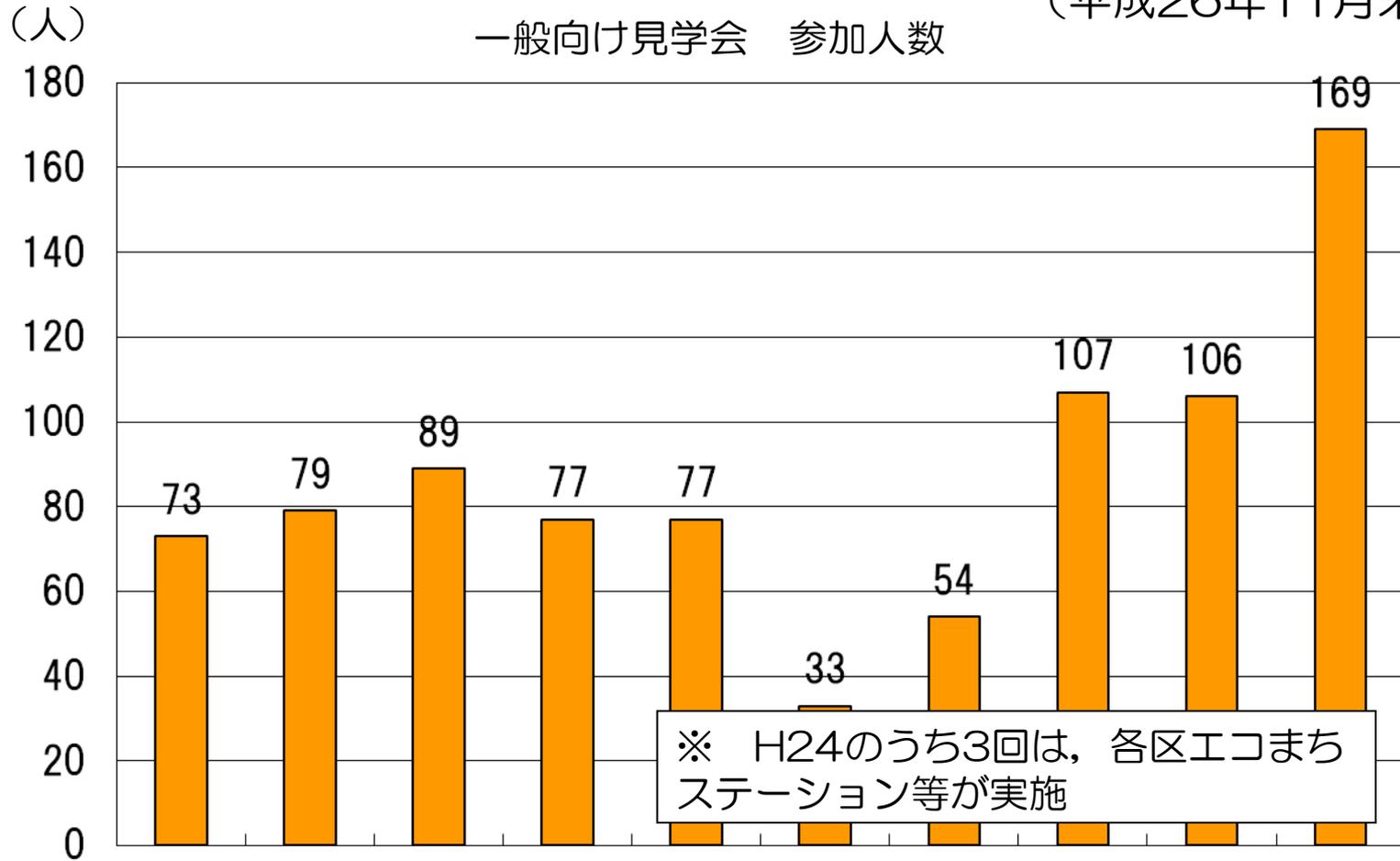
さんぱい施設見学会参加人数の推移①



実施年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
実施回数	1回	1回	1回	1回	1回	1回	2回	2回	3回	3回

さんぱい施設見学会参加人数の推移②

(平成26年11月末現在)



実施年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
実施回数	2回	2回	2回	2回	2回	1回	2回	5回	6回	7回

さんぱい施設見学会（小中学生向け）アンケート

<アンケート結果>

○ 満足していただけた方のご意見・ご感想（主なもの）

- 分別の大切さがよくわかった。
- 食べ残しを減らし、リユース、リデュース、リサイクルをもっと協力しようと思いました。
- ごみへの意識が高まりました。
- 家庭でもできることを考えていきたいと思いました。

○ 今後よりよい事業にするためのご意見・ご感想

- もっとゆっくりと見学したかった，時間が短かった。
- 対象年齢以下の子どもの参加は制限すべき。

<まとめ>

- 夏休みの自由研究にする子どもも多く，夏休み前半の開催が望ましい。
- 時間が短く，子ども達に理解してもらうことが難しいため，クイズ形式にするなど資料に工夫が必要である。
- 排出事業者と処理施設の両方を見学するツアーが参加者に人気がある。
- 昨年の意見を踏まえてマスクや消臭剤を用意した点については好評であった。

2 第15回環境フォーラムきょうと

準備中

<日程等>

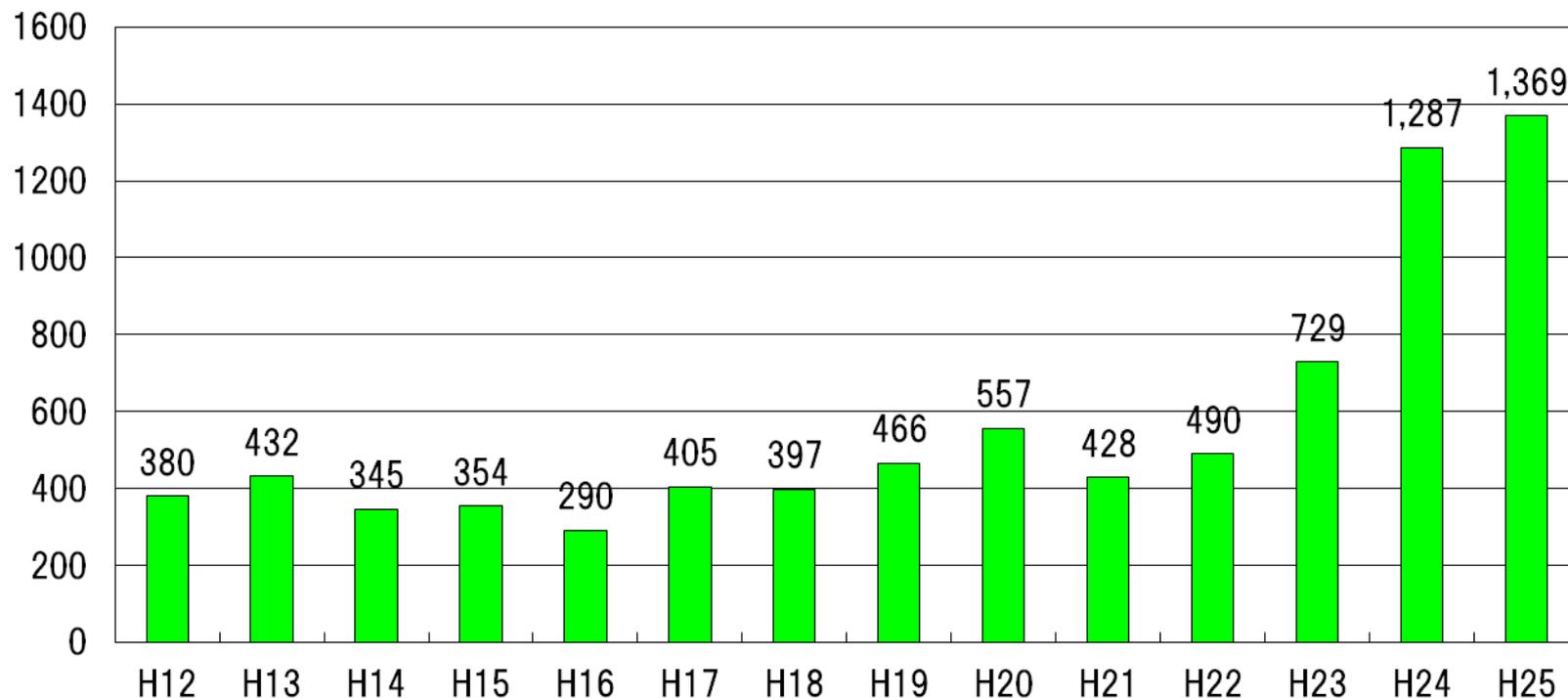
- 日 程 平成27年3月7日（土） 10時～17時
- 会 場 イオンモールKYOTO kotoホール

<概 要>

今年度も、以下のような視点を踏まえて実施する。

- (1) 次のこと分かりやすくアピールすること。
 - 産業廃棄物とは何か。また、どのように処理されているか。
 - 産業廃棄物の適正処理等が市民生活に身近で大切な問題であること。
 - 多くの産業廃棄物がリサイクルされていること。
 - 多くの事業者が産業廃棄物の適正処理の確保やリサイクル等の推進に取り組んでいること。
- (2) 今後のまちづくりを担う小中学生やファミリー層の参加が期待できる企画を行うこと。
- (3) 他の環境問題への関心を高めるきっかけになること。

フォーラムの参加人数の推移



会場

- H12 : アバンティホール (ホール定員 : 362名)
- H13~H19 : 北文化会館 (ホール定員 : 405名)
- H20~H22 : 呉竹文化センター (ホール定員 : 600名)
- H23 : 京都市勧業館みやこめっせ (ホール定員 : - 名)
- H24~ : イオンモールKYOTO (ホール定員 : - 名)